

3月29日 市民活動応援☆きらきら基金第17回助成事業のご報告と御礼

3月29日(土)第17回助成事業を員弁コミュニティプラザで行いました。10時から会場設営、展示とスムーズに進み、12時の受付開始にはほぼ、準備が整っていました。

12時半からのオープニングは「あげきっ子民謡保存会」の三味線演奏です。この日参加できなかった代表に代わり、この春から大学生になる松宮羽美さんが「尾鷲節」を伸びやかに弾き、謡い上げました。その後、活動報告をされ、「民謡を後世に伝えていきたい」と締めくくられました。



きらきら基金運営委員会の小笠原代表の「このきらきら基金は皆様からの寄付が財源となって、まちの課題が解決するよう活動していますので、応援よろしくお願いします。企業、市民、行政と三つ巴でまちを元気に、暮らしやすく楽しいまちづくりをしていこうという人がここに集まっています。団体の活動を聞いて感動を持っていただけたらと思います。」という挨拶の後、来賓のいなべ市日沖市長から「きらきら基金は17回という長い歴史。市民活動の財源を皆さんの手で何とかしようと活動され、行政が手の届かない、気づかないところを市民活動の皆さんの気づきで広げて、新しい事業に結びついていけると思います。」と言葉をいただきました。この後、桑名商工会議所女性部が集めてくださった81,914円を小笠原代表が受取り、2024年度の当日までの寄付額の報告がありました。

県NPO班杉坂班長からも「皆さまの地域に対する熱い思いを共有し、今後の活動の可能性を広げる貴重な機会です。様々な分野の取組について、互いに学び合うことで、より充実した市民活動につながる



ことを期待しております。三重県も、みえ県民交流センターを拠点に、社会参画を支援しており、次世代の市民活動を担う若者を対象とした「未来のシチズンシップ事業」や、企業とNPOを繋ぐ「SDGsプラットフォーム事業」などに取り組んでいます。」とのメッセージをいただき、代読しました。

寄付投票の説明の後、メインの団体助成のプレゼンでは5団体が発表しました。



Music Is Religion 20年前に行われていた地域の盆踊りまつりを「いなべ盆祭」と称して復活、去年3回目を開催し2000名の参加がありました。いなべの盆踊り文化を次世代につなげ、世代を超えた老若男女が集える場を提供、「古き良きものこそを大切に」を団体理念として活動しています。地域の公民館ということで営利事業ができず赤字決算のため、国や銀行等の補助金も取れない状況です。今後は地域の方に協力を仰ぎ、継続していく方法を考えていきます。地域に新興住宅が増え、地場の住民と新しい人とが「いなべ盆祭」を通じて今以上に繋がりができるよう頑張ります。



特定非営利活動法人のん・ぼっち 昨年度新たに引き取った猫は大人3匹、子猫5匹です。大人に妊婦がおり、子猫が5匹生まれ、うち3匹は譲渡が成立しています。また、1匹はエイズキャリアで定期的な受診と毎月のインターフェロン投与をしています。昨年10月から定期的に譲渡会を開催。譲渡が成立したのは現在までに7匹です。また個人で活動している方とも勉強しあい、引取先の拡充も行っています。しかし、身勝手な理由で遺棄される猫が後をたたないのが現状です。行き場のない猫が安心して暮らせ、その可能性が広がる有効的な手段として、個人の方々とコミュニケーションを築き、悩みや問題を共有できる定期的な会議、SNSを活用した定期的な譲渡会、猫好きを対象としたマルシェなどの活動に加え、悩み相談を受け、快く思われていない近隣住民との妥協点を共に考えています。



この2団体は昨年に引続きのエントリーで、報告も兼ねての発表でした。

特定非営利活動法人よすが 地域協働型障害福祉サービス「いーばしょ」と、まちのメンタルヘルス「よすが」という活動をしています。「いーばしょ」は主に発達のでこぼこがある方が参加するところで、地域の方から借りている畑でイチゴやスイカを作りました。また、B型事業所としては珍しく「地域お助け隊」として高齢者や身体の不自由な方のちょっとした困りごと（買物、床掃除、電球の交換等）のお手伝いをしています。この中で世代交流もできています。「よすが」はメンタルヘルス相談、サロンの開催等を行っています。助成金でやっていますが、運営は大変です。「いーばしょ」の前で「地域の縁側」として交流活動もしています。また「ぼちぼちサロン」を、ちょっと一息ほっとしたい方を対象に毎月第2土曜日に開催しています。お話コーナーやゲームをしたり学習会を開いたりしています。目指すのはまちづくりで、お寺など色々な場所でサロンを開いています。



昨年エントリーされましたが、代表の入院で参加できず、今回はリベンジの発表でした。

いなべの里山を守る会 地域の環境をきれいにしたい、子どもたちが自然の中で遊んでほしいという想いで活動しています。両ヶ池の近くの活動場所では、春に植物観察や、竹工作、去年からアウトドア体験や、木登り体験など、子どもたちに遊び場の提供をしています。周りが住宅地のため、地域の子が遊びに来ています。また、竹藪もあり、秘密基地作りも開催していますが、親も一緒になって熱心に参加しています。活動では草刈りが欠かせません。特に去年は暑くて、少し手を抜いていたら、草が伸びて大変で、草刈り機の刃も例年以上に消耗しました。



特定非営利活動法人ネットワークくわっこ 子育て支援事業、文化芸術体験事業、ネットワークづくりなど乳幼児から子育てに関わる支援をしています。その中で「ひろば事業にじっこ」は、未就園児と保護者を対象に「リトミック」「親子ふれあい遊び」を2本柱として活動。現在の子育ての課題解決のため「にじっこ」では、親子で外出する機会を提供、子どもと楽しく触れあう方法を伝えています。子育て世代のため情報を提供し、子育ての不安を軽減。親同士やスタッフとの交流で悩みを共有できる場所を提供しています。目指すゴールは「親が自分を信じて子育てができること」「親が楽しみながら自分らしい子育てができること」「親が自分なりに考え判断しながら子育てができること」「親がどんな弱音も吐ける場所にすること」など、今の子育て世代の問題の解決に繋がればとの思いで活動しています。2025年度は、子育て世代が頼れる、「助けて」が言える、交流ができるそんな居場所づくりをしていきたい。



最後に「きらきら基金運営委員会」のプレゼンと「サンタの行進」の映像を映して、寄付投票タイムに移りました。会場では助成事業開催の目的のひとつである交流があちらこちらで見られ、名刺交換も行われていました。

寄付投票が終了し、第11回企業の社会貢献活動アピール会が始まりました。10社の活動展示があり、そのうちの2社がプレゼンを行いました。



(株)デンソーワイズテック デンソーグループの一員です。東員工場では主にワイヤーハーネス、センサーを製造。エアコン温度自動調整をしたり、タイヤの回転速度やマフラーから出る二酸化炭素量を計測する製品を作っています。当社は、ものづくりを通して人々の幸せに貢献する、活力のある企業を目指しています。社会貢献活動として障害者施設の清掃、赤い羽根共同募金、献血の支援など様々なボランティアを行っています。ペットボトルキャップの回収は4万2000個を回収し、ポリオワクチン49本分を寄付しました。またWAFCAへも車イス1台を支援しました。地域貢献活動では、中部公園の美化活動、会社や員弁川付近の清掃、きらきら基金の寄付の呼びかけを行っています。また、中部公園の紫陽花を管理している「紫陽花倶楽部」の活動にボランティアとして2020年から参加しており、夏の紫陽花の剪定、冬の施肥、枯れ枝の撤去を行っています。



大安工業(有) 金属部品の塗装を行っています。鈴鹿サーキットのレーシングカーの塗装もしています。地域の人とのイベント交流として、いなべ市協が進めている「しばぎくら共生プロジェクト」で丹生川こども園の園児と株植えをしました。丹生川小学校のお絵かき体験授業では、余った塗料で会社の壁にお絵かきをしてもらいました。地域の方とAEDの講習会もしました。「駄菓子屋ヤッホー」は、毎週水曜日3時～4時半まで、社員食堂を開放して、地域のママが運営する子どもの居場所、地域交流の場として活用してもらっています。いつかやりたいことは、弊社のトラックを使用した交通安全教室、地域の人との防災訓練(炊出し)、BMXスケボーパークを作ることです。



アピールタイムでは、デンソーグループはあとふる基金、三十三銀行NPO 応援基金の案内。NPO 法人いなべドローン協会の活動紹介をした後、協力していただいている桑名、東員、いなべ、各市民活動センターの活動紹介がありました。その後、前回の助成団体「出前寄席とういん楽語(落語)の会」「森のとびら三重」「地域交流の広場ネットワーク」の活動報告があり、続いてパートナー事業助成のプレゼンを行いました。

「お魚の力で地域の方々の心を癒やす」 OHANA×パパリウム

「OHANA」は、「脱・孤育て」を目指して毎週月・水曜日に活動。イオンモール2階では、ワンルーム託児活動と、4月から一時預かりを始める予定です。子育て支援とアクアリウム「パパリウム」で地域に新しい交流の場を作りたいと子どもに相談したら、長男が「おにぎりを作ってたくさんの人を笑顔にしたい」と大賛成してくれた。先日の第1回には200人が参加し、パパリウムにも87人が見に来てくれた。今後も小さな子どもからお年寄りまで集まれる地域交流の場を2か月に1回開催したい。「おにまるや」の長男の話「自分が作るおにぎりが大好きです。みんな喜んで食べてくれるから。僕のおにぎりです。たくさんの人を笑顔にできたらとやってみたくて思いました。」



(株)三十三総研の先浦さんから「先日水族館に行ってとても癒やされる経験をしました。殺伐とした世の中でこのような活動を高く評価します。地域の方々と協力し工夫して、長く活動を続けてほしいです」と講評をいただきました。ここで交流タイムを挟み、助成金授与、記念写真撮影を行いました。

当日の参加人数は61人でした。当日寄付投票額は44口、72,600円でした。これに原資を加えて、5団体に214,200円を、1事業に30,000円を助成しました。内訳は次のとおりです。

団体助成	Music Is Religion	36,700円
	特定非営利活動法人のん・ぼっち	46,300円
	特定非営利活動法人よすが	37,900円
	いなべの里山を守る会	46,000円
	特定非営利活動法人ネットワークくわっこ	47,300円

パートナー事業助成

OHANA×パパリウム 30,000円

また、きらきら基金運営委員会には、8,300円の投票寄付をいただきました。

その他、募金箱寄付額は、32口131,784円。

サンタの行進の募金箱寄付が6,358円、ガチャポン募金が12,000円。

郵便局寄付口座への振込みが、お二人60,000円でした。

以上、計282,742円を、今年度の寄付額とさせていただきます。

寄付の余剰金は次回の助成事業に繰越しいたします。



最後に、きらきら基金運営委員会辻副代表の挨拶で締めくくり、助成事業を終了しました。皆さんの小さな活動が社会の循環になり、潤いになっています。これからも地域のためにできることを探して活動していきたいと思えます。今回の助成事業を行うにあたり、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

発行元 (特)みえきた市民活動センター

事務局 〒511-0088 桑名市南魚町86めがね工房ごうじ内 TEL 0594-27-2700 FAX 0594-27-2733